

卒業論文ガイド

- ver. 12.0 -

(2023年度以降の提出者を対象とする)

中央大学 文学部 西洋史学専攻

(2023年4月配布)

※このマニュアルは再配布しません。紛失した場合は、西洋史学研究室オリジナルHP内の「専攻の学び」(<https://seiyoshi.r.chuo-u.ac.jp/undergraduate/soturou-guide/>)にあるPDFファイルからプリントアウトしてください。

目次

I.	卒業論文について	p.3
	卒論作成の日程プラン 卒論作成上の注意 卒論の口述試験	
II.	注のつけ方	p.10
	不適格な注の例／邦文／欧文／オンライン	
III.	西洋史学基本文献表	p.21
IV.	特別演習について	p.25
	特別演習とは テキスト&レジュメ印刷補助	
VI..	卒論テンプレート	p.27

先輩からのアドバイス

- ①中央書庫は知識のダンジョン！&書を探しに街に出よう！
- ②西洋史を学ぶからには洋書に挑戦してみよう！
- ③インターネット、どう使うかはキミ次第！
- ④便利なCiNii（サイニイ）、だけど急がば回れ！

I. 卒業論文について

文学部西洋史学専攻では、卒業論文（以下、卒論）を必修としています。卒論の履修にあたってはいくつもの手順が必要になり、またその手続きや作成には十分な配慮が必要です。以下の要領を熟読し、時間的に余裕を持って準備してください。

◆ 卒論作成の日程プラン

3年次の終わりから就職活動が解禁となり、4年次には教育実習、教員・公務員試験、各種資格試験などがあるため前期は特に忙しく、落ち着いて卒論の執筆に集中することが困難なので、早めに作業を進めてください。

なお文学部時間割に記載される卒論関係日程を頭に入れて置いてください（ときおり変更や急な連絡がある場合もあります。文学部事務室と研究室からの連絡 C-plus manabaは定期的に確認すること）。

- 3年次** —— 4月：特別演習開始（卒論執筆のトレーニング）
後期：ゼミ論（予備卒論）の執筆&提出
※ 4年次に指導教員を変更する場合は事前にゼミ教員と相談し、希望する教員とも面談をすること。
- 春休み** —— 主要文献の熟読
3月：卒論履修登録（自動登録なので履修登録時に各自で確認）
- 4年次** —— 4月：卒論指導日発表（研究室で告知します。各自で確認）
夏休み：文献を熟読しつつ、論文の全体的な構想を立てる。
後期：論文の執筆
10月：卒論題目を西洋史学共同研究室に送信（西洋史のみ）。
12月中旬：卒論提出
1月下旬：口述試験

◇卒論作成上の注意

1.<卒論の意義>

卒論は大学生活の総決算です。十分な注意と努力を払わなければなりません。

2.<卒論の目標>

卒論とは、自分でテーマを選び、これまで書かれた研究（先行研究）をよく読んで整理・理解し、自らの問題を提起したうえで論を組立て、引用や使用した文献などに注を付けて本論を執筆し、結論を導いてゆくものです。

3.<どのような卒論が不合格とされるか>

自分では卒論を完成させたと思っても規格に外れていたり、悪意はなくても他者の論を盗用したとみなされるもの（とくに文献注の欠落）は不合格になりますので、かならず提出前に指導教授の指導を受けてください。

- ① たとえば第二次世界大戦の開戦から終戦までを通史的に書いたもの、カエサルの誕生から死までを書いた評伝のようなもの、ヴェルサイユ宮殿について建物、装飾、庭園などをただ説明しただけのもの。
- ② 論旨を論理的に説明していないエッセイ（例：ナチスのユダヤ人迫害をとりあげてユダヤ人は悲惨でヒトラーは悪いというような感情論、ナポレオンは偉大な英雄だったというような単なる評伝）。概説的な本、入門書、歴史小説のみを読んで卒論を書いた場合にこのような論文になることが多い。
- ③ 的確な卒論の形式（「卒論ガイド」7頁参照）に従って書かれていないもの。とくに引用した文献、参照した史料や研究そのほかの情報を、使用した箇所での確に注で明記しないもの（「卒論ガイド」II.注のつけ方 参照）。悪意はなくても、これは他人の研究や意見を自分のものとして記したことになり、著作権の侵害になる。
- ④ コピペもしくはコピペに等しいもの。本文に他人の著作からの引用をしたが、引用部分に括弧をつけなかったもの。
- ⑤ そのほかこれまで不合格となった卒論には、次のようなものがあります。
 - ・ 邦語文献をほとんどそのまま書き写したもの、もしくは欧文の文献を和訳しただけのもの。
 - ・ 規定の字数に達しないもの。
 - ・ 史実に関する知識が不正確なもの。
 - ・ 論旨が明らかでないもの。
 - ・ 出典注がないもの、極端に少ないもの。
 - ・ 他人に執筆を依頼したもの。
 - ・ 口述試験の成績が不良なもの。

4.<テーマの決定>

卒論のテーマは、文献の有無（先行研究があるかどうか、史料が手に入るかどうか）、自分の基礎知識と関心、執筆の意義（先行研究を理解したうえで、新たな問題を提起できるかどうか）などを考慮しつつ、慎重に決定しなければなりません。

5.<卒論指導>

4年次には特別演習のように毎週ゼミ生一同で集まることはありません。指導教員毎に卒論指導の時間を設定しますので、適宜個別に指導を受けてください。設定した時間以外で指導を受けたいときには指導教員に連絡してください。

事情により卒論の提出を延期する場合は、あらかじめ指導教員に連絡してください。

6.<文献の収集>

どんなに興味深いテーマであっても、文献がなければ卒論は書けません。文献が少ないために卒論のテーマを変更せざるをえないこともあるので、文献の収集は早めに行ってください。

まずは巻末の「Ⅲ. 西洋史学基本文献表」を利用してください（研究室には研究入門書コーナーも設けてあります）。特に、文献を探す上で欠かせないものとして『史学雑誌』の西洋史文献目録と「回顧と展望」（毎年5月号）にはかならず目を通してください。また、歴史学／西洋史を扱っている主な学術誌として『西洋史学』、『歴史学研究』もあります（こちらへんが西洋史学関係の3大メジャー誌）。

中大の検索システム〈**CHOIS**〉では中大所蔵の邦語文献と外国語文献の検索はもちろん、データベース検索も利用可能です。

CiNii Books では探している本や雑誌が国内のどの大学図書館に所蔵されているかを検索できるので、中大に所蔵されていないものは図書館のレファレンスセンターで紹介状を書いてもらって自分で行くか、文献複写（コピー）を依頼するということも可能です。

◇これだけは使いこなしたい！ 外部オンラインデータベース検索リスト

◎ **CiNii**（サイニイ）**Books**：

国立情報学研究所による全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベース（<http://webcat.nii.ac.jp/>）。中大にない本はこのサイトで所蔵大学を確認後、レファレンスに紹介状を書いてもらい自分で行くか、雑誌論文なら必要論文を複写依頼（有料）することが可能。どこからでも無料でアクセス可能。日本の論文を検索する **CiNii Research** もあります。

◎ 日外アソシエーツが提供

- ・ **MAGAZINE PLUS**：国内最大 670 万件の雑誌・論文情報・雑誌記事索引を補完するレファレンスツール。国立国会図書館・雑誌記事索引(1975～)、記念論文集(1945－1998)、一般論文集(1945－1998)、シンポジウム・講演集(1945－1998)、学会年報・研究報告(1945－1995)、一般誌・総合誌・ビジネス誌(1981－)、その他(海外産業・企業紙や国内経済専門紙・業界紙)
- ・ **日外 BOOKPLUS**：昭和元年～現在に至る書籍情報が検索可。1986年以降の本には、内容・目次情報が掲載されている。

※上記のものは中大が契約している一部ですが、これらを併せて使うとかなりの数の論文・図書が検索できます。また、検索するときは項目や条件をいろいろと変えて試してみてください。

◆ **卒論入庫とは**

本来学生は入れない中央図書館の書庫ですが、卒論執筆者向けに3年次から入庫を許可する手続きです。特別演習のゼミ論を執筆する上でも必要ですから、3年次の早い段階で図書館の中央カウンターで申請を行ってください。

◆ **卒論特別貸出とは**

卒論執筆はマラソンのようなものです（決して短距離走だと思わないこと）。参考文献に何度も目を通すことになるでしょう。そのため長期にわたって文献が手元にあると非常に便利です。また、文献の数もレポートよりはるかに多く必要です。

卒論特別貸出を申請すると、貸出期間の延長（15日間⇒30日間）と貸出冊数の増加（10冊⇒15冊）が得られます。4年次から利用可能ですから、各自で図書館の中央カウンターで申請を行ってください。

..... **先輩からのアドバイス①～中央書庫は知識のダンジョン！
&書を探しに街に出よう！～**

中大の図書館の蔵書量は他大学と比べて膨大（2012年3月31日時点で、なんと2,197,155冊！）で、その多くが書庫にあります。

文献を探す時はまず足下から攻めるのが基本です。灯台もと暗し、実は書庫にあった、なんてこともよくあるのです。

ネットで最初から目的の本だけを探すのではなく、実際に多くの本を目の前にすると、思わぬ収穫を得ることがあります。良い論文を書くにはまずは本に慣れ親しむことが大切です。書庫だけでなく、大型書店や人文系専門書店でも同じ事が言えます。

現在、池袋と新宿は大型書店の激戦区となっています。特に新宿の紀伊国屋、池袋のジュンク堂、東京駅の丸善、神田神保町の崇文荘は歴史書のコーナーが充実していて、思わぬ掘り出し物にめぐりあえることもあるので、一度は足を運ぶ価値ありです。

それと、神保町をぶらぶらするといかにも大学生っぽくて楽しい。美味しいお店とかもたくさんあるので、一度は行ってみてください。秋（10月末～11月頭）には古本祭りもあって神保町界限は本当ににぎやか。世界最大の古書店街はダテじゃない！

「本読み」の直感と経験は磨き上げるもの。めざせ図書館&書店マスター！

7.<文献を読む>

卒論のテーマに関する先行研究をノートに取りながら熟読し、その研究が何について、何を証拠として、どのように論じ、どのような結論を導いているのか理解する作業が必要です。先行研究を正しく理解するのは卒論執筆の基本なので、論じられている史実、使用されている学術用語、地名や人名などを、きちんと把握してください。そのうえで先行研究に対する批判的な視座や自分なりの意見が得られれば、問題提起の糸口となるでしょう。

問題意識が芽生えると、それに関する専門的な雑誌論文や史料を読み、専門知識を増やすとともに、自分なりの論を構築する段階になります。できれば4年の夏休みが終るまでにこの段階を終えておくとういでしょう。

◇参考文献表の作成

- ①読んだ文献の書誌データは必ず控えておきましょう。コピーした論文で掲載誌・号がわからないときなどもう一度調べ直さないといけません。
- ②文献表に記載するものは原則として本文または注で使用したもの。
- ③史料、書籍、論文は分ける。
- ④日本語と外国語の文献も分ける。
- ⑤著者名を五十音順に文献を並べる。
 - ・同一著者の文献が複数ある場合は発表年順に並べる。
 - ・外国人の場合、ファーストネームではなくファミリーネームを基準にする。
ex.) × リンダ・コリー ⇒ ○ コリー、リンダ
- ⑥文献表作成は地味に時間と手間がかかるので最後でなく早めに作成すると良いでしょう。

8.<卒論の形式>

※「卒論テンプレート」もあわせて参考にしてください。

テーマが決まり、文献を集め、読み進めてきたらいよいよ執筆作業です。「論文」と名のつくものを書くに当たって、専攻内でのルールだけでなくいろいろな「お作法」を知っておく必要があります。自分の意見を文章で読者に納得させる、ということは決して簡単なことではありませんが、これこそ文学部の学生が習得すべき最も大切な技術といえます。

◇卒論の書式

- ①用紙のサイズ：A4版横書き
- ②最低字数：15,000字。文字カウントなどの機能を使って確認してください。
これに満たないものは不合格となります。
目次のページに総字数を記してください（節ごとのカウントは不要）。
※本文のみで、脚注、参考文献、図表・統計資料などの字数は除く。
本文中に史料（外国語）または史料訳を引用する際は、適正な分量について指導教員と相談すること。
- ③卒論は目次、序、本論（だいたい3～4章、各章に見出しをつける）、結論、参考文献表からなり、必要があれば巻末に図版、表、地図、年表などをつけてください。
- ④注を必ずつけてください。注は本文の同一ページの下段に横線を引いて、その下にそのページごとに記入してください。ページごとにつけるこの注の形式を「脚注」といい、最後にまとめて載せる形式は「巻末注」と呼びます。
西洋史学専攻では脚注の形式をとり、注の数字は通し番号にしてください。
一般的に言って注とは、引用あるいは依拠した文献名とページ（引用注／出典注）を記す場合や、本文中に書き得なかった補足的な説明（説明注）を記します。

11.<模範卒論>

西洋史学専攻の卒業生が書いた卒論の中から優秀なものを模範卒論として西洋史共同研究室で保存しているので参考にしてください。

今までの先輩たちもがんばって卒論に取り組んできました。みなさんにもできないわけがありません。模範卒論に選ばれることを目指してがんばってください。

模範卒論は基本的に西洋史研究室でのみ閲覧できますが、一部はクラウド上でも閲覧可能です。アクセスの際は大学が付与しているアドレスでログインして閲覧してください。

<https://docs.google.com/document/d/1MfMOxGhLvNGICKdQ4kQecTCpq0BSvJzxnHFZQccuD8M/edit#>

■ 卒論の口述試験

1. 提出された卒論は指導教員（主査と副査の2名）が審査し、1月下旬頃にその内容について口述試験を行います。
2. 口述試験の日時については、卒論提出後12月下旬もしくは1月上旬にmanabaにて告知します。
指定された日時に必ず口述試験を受けなければなりません。家庭の事情や就職活動関連でやむを得ない事情がある場合のみ研究室に相談してください。
個人的な事情（旅行など）を理由にする陳情はいっさい受け付けません。
3. 口述試験の準備のために、卒論をプリントアウトしておいてください。
口述試験に持ち込めるものは卒論のコピーだけです。

II. 注のつけ方

論文を書く際に絶対になくてはならないものに「注」があります（「註」とも書きます）。そして注のつけ方には以下で例に挙げるようないくつかの“約束事”があります。このガイドと自分が使う文献での注の形式を参照してきちんと注をつけるように心がけてください。そして注の形式は必ず統一してください。

□不適格な注の例

- (1) 注を付けるべき部分に注がない。とくに文献や史料を本文に引用した場合はもちろんのこと、本文で自分の執筆部分と文献を参照して執筆した部分を区別するために、文献注をかならずつける。
- (2) 注を付けたものの、「注のつけ方」にあるような適切な形式になっていない。たとえば使用した文献のページが示されていない、など。
- (3) 必要でない説明注ばかりで文献注がない、あるいは不足している。
- (4) 注を付けずに本文だけ書いて、あとからまとめて注をつけようとしたものの時間切れになった事例がしばしばあるので、注意。

◆邦文

(1) 和書

- ①初版 外山三郎『西欧海戦史』原書房, 1981年, pp. 95-97.
 - ・本のタイトルは『』でかこむ。
 - ・ページについて
 - ・参照しているページが単数のときは《p.》
 - ・複数ページにわたるときは《pp.》の区別に注意。
 - ・《p.》《pp.》の場合、スペース（半角）をあける。例) p_5
 - ・漢字で表記する場合は《95-97頁.》（ピリオドをつける）
- ②初版以外 『本のタイトル』, 1981年初版, 1985年○版, pp. 95-97.
- ③増刷 内容は変わらないので、初版の年だけ書けばよい。
1980年初版第1刷で、利用した本が1985年第6刷の場合でも1980年

(2) 訳書

テイラー、A. J. P. 『イギリス現代史』第1巻, 都築忠七訳, みすず書房, 1968年, p. 72.

(3) 論文集

見市雅俊「二つのイギリス」河野健二編『ヨーロッパ 1930年代』岩波書店、1980年、pp. 196-197.

- ・論文のタイトルは「」でかこむ。
- ・編者、監修者がいる場合、それも書く。

(4) 雑誌論文

見市雅俊「ジョージ・オーウェルと30年代の神話」『思想』1978年8月号、pp. 15-17.

見市雅俊「サー・レオ・キオザ・マネーの千年王国」『史林』第68巻3号、1985年、p. 130.

- ・雑誌のタイトルは『 』でかこむ。

(5) 同じ文献を連続して使った場合

<本> (2) 外山三郎『西欧海戦史』原書房、1981年、pp. 95-97.

(3) 同上書、pp. 101-102.

<論文> (2) 見市雅俊「ジョージ・オーウェルと30年代の神話」『思想』1978年8月号、pp. 15-17.

(3) 同上論文、p. 11.

(6) 間をおいた場合

<本> (1) 外山三郎『西欧海戦史』原書房、1981年、pp. 95-97.

(2) (なにか別の文献)

(3) 外山三郎、前掲書、pp. 8-10.

<論文> (1) 見市雅俊「ジョージ・オーウェルと30年代の神話」『思想』1978年8月号、pp. 15-17.

(2)

(3)

(4) 見市雅俊、前掲論文、p. 16.

(7) 同じ著者の著作や論文を複数使用した場合、(6) は使えない。略記などを考える。

例) 《.. 以下、見市「ジョージ・オーウェル」と略す。》と書き、その後は・・・

- (1) 見市雅俊「ジョージ・オーウェルと30年代の神話」『思想』1978年8月号, pp. 15-17. 以下、見市「ジョージ・オーウェル」と略す。
- (2) 見市雅俊「サー・レオ・キオザ・マネーの千年王国」『史林』第68巻3号, 1985年, p. 130.
- (3) 見市「ジョージ・オーウェル」, p. 17.

(8) 史料、または史料集からの引用

書名とページだけでなく、史料名も記載する

例) 『サリカ法典』[41章 自由人の殺害について] (ヨーロッパ中世史研究会編『西洋中世史史料集』東京大学出版会、2000年、pp.11-12.)

(9) 再引用 (孫引き) について

例) 労働者階級の詩人として知られるジョン・クレアが「生涯わたしは、家から八マイル以上離れたことなどなかった。また、わたしが知っている地域よりイングラドがずっと大きいことなど、夢だにできなかった」(13)と故郷での生活を振り返る……

- (13) Cannadine, David, *The Decline and Fall of the British Aristocracy*, New Haven and London, 1990. pp.8-25. (コリー、リンダ『イギリス国民の誕生』名古屋大学出版会、2000年、p.18より再引用)。

◇ 欧文

(1) 洋書

例① Anderson, Benedict, *Imagined Communities : Reflections on the Origin and Spread of*
※ 1 ※ 2

Nationalism, London : Verso, 1983, 1991, pp. 57-63.
※ 3 ※ 4 ※ 5 ※ 6

例② Mosse, George L., *Nationalism and Sexuality : Middle-class Morality and Sexual Norms*
※ 1 ※ 2

in Modern Europe, Madison : University of Wisconsin Press, 1988, p. 134.
※ 3 ※ 4 ※ 6

例③ Bloch, Marc, *La société féodale : la formation des liens de dépendance ; les classes et le*
※ 1 ※ 2

gouvernement des hommes, Paris, Michel , 1968, p.5-7.
※ 3 ※ 4 ※ 6

例④ Bruner, Otto, *Land und Herrschaft; Grundfragen der territorialen Verfassungsgeschichte*
※ 1 ※ 2

Österreichs im Mittelalter, Wien; Wiesbaden, 1959, S.15-16.
※ 3 ※ 4 ※ 6

※ 1 筆者。姓を先に表記。

※ 2 本のタイトル。書名、雑誌名、新聞名、および下記（5）の表記にはイタリック体（斜体）を使用。

※ 「」や『』は日本語の表記なので邦語文献に使用するものであり、外国語文献には使用しない。

※ 3 発行地、および出版社。①②③の場合、発行地の後に出版社を付記している。イギリスは出版社のみ、ドイツ語圏は出版地のみ傾向があるので指導教員の指示に従うのが良い。

※ 4 初版が発行された年。

※ 5 使用した本の版が出版された年。初版を使用した場合には、この部分は当然不要。ちなみに ed. は edition の略号。

※ 6 使用ページ。邦文と同じ。

（2）論文集におさめられた論文

Hemka, Gert, "Same-sex Relations among Men in Europe, 1700-1900", in *Sexual Cultures in Europe : Themes in Sexuality*, ed. by Hall, Lesley A. & Hemka, Gert, Manchester : Manchester University Press,
※ 1 ※ 7 ※ 8

1999, pp. 94-98.
※ 4 ※ 6

※ 7 論文名には" "をつける。
「」や『』は日本語の表記なので邦語文献に使用するものであり、外国語文献には使用しない。

※ 8 論文集のタイトルも明記。

※ 9 論文集の編者名。

(3) 雑誌論文

Berman, Constance Hoffman, "Were There Twelfth-Century Cistercian Nuns?", Church History: Studies in Christianity and Culture, 68, 1999, p. 824.
※ 1 ※ 7 ※ 2

Church History: Studies in Christianity and Culture, 68, 1999, p. 824.
※ 10 ※ 11 ※ 6

※ 10 巻・号。 ※ 11 発行年。

(4) 新聞

The Times, 3 March, 1888.
※ 2 ※ 12 ※ 12 発行日。

(5) 同じ本および論文の二回目以降の注表記

① 連続する場合 *Ibid.*, p.18.

② 間をおいた場合 A. Marwick, *op. cit.*, pp. 45-49.
H. W. Richardson, *loc. cit.*, p. 5. ただし、今は *op. cit.*, が一般的。

(6) 日本語文献からの孫引き

例) ○○○○, p. 90. (△△△△, ××頁からの再引用)
※ 13 ※ 14

日本語の再引用に準拠する。

※ 13 欧文文献タイトル

※ 14 邦文文献タイトル

(7) 史料、または史料集からの引用

日本語文献と同様に、書名とページだけでなく史料名も記載する。

例) Lenin, V.I., "Long live the world socialist revolution!", in *The Penguin Book of Historic Speeches*, ed. by MacArthur, Brian, Penguin Books, 1996 (First published by Viking, 1995), pp.465-467.

※～線箇所が史料。例の場合は英訳。

(8) 略号対応表

日本語	英語	フランス語	ドイツ語
編者	ed. (editor)	éd. (éditeur)	Hrsg. (Herausgeber)
訳者	trans. (translator)	trad. (traducteur)	Übers (Übersetzer)
巻	vol. (volume)	v. (volume)	Bd. (Band)
号	no. (number)	n. (nombre)	Nr. (Nummer)
版	ed. (edition)	éd. (édition)	Aufl. (Auflage)
頁	p. / pp. (page)	p. / pp.	S. (Seite)
同上論文	Ibid. (ibidem)	Ibid.	Ebd./ Ibid. (ebenda)
前掲論文	op. cit. (opere citato / opus citatum)	op. cit.	a.a.O. (am angeführten Ort)
～を参照せよ	cf. (confer / compare)	v. (voyez / voir)	vgl. (vergleichen)

- ※ () は元の単語。品詞によっては略語の表記が変わることもあります。
- ※ ピリオド (.) は終了、あるいは省略の記号であることに注意。
- ※ 略号の書き出しを大文字にするか小文字にするかは、先行研究などを参考にして、統一してください。
- ※ 卒論においては、大半の場合は英語の表記法に従えば問題ありません。

以上は、英・独・仏語の文献についての注の表記法です。その他の言語の注についての表記法や前記の分類に入らないものについては、それぞれの指導教員に相談してください。また、著者によって略号の使用方が異なることもあります。自分の卒論執筆においては表記の仕方や略号の使用法は統一してください。

……先輩からのアドバイス②～西洋史を学ぶからには洋書に挑戦してみよう！～……

現在は以前に比べ洋書の購入は非常に身近になっています。Amazon.comなどのネット書店や海外の書店（新刊／古書）のホームページを利用すると比較的手間がかからないです。価格、発送方法、支払方法など他店と比較することも忘れずに。Amazonでは購入者あてに類書の案内もあります。

ネット書店で注文する際の注意

- ・カード決済のみという店もあります。また、使えるカードの種類にも注意。
- ・Amazonなどの大型ネット書店では注文システムが整っていますが、そうでない書店も多いです。その場合はメールでのやりとりになります（もちろん英語等で）。そんなときに役立つのがビジネス英語の用例辞典の類。注文だけでなくトラブルや確認のためにも有効！たま～に注文していない商品が送られてくることもあるぞ（体験者談）。

インターネットを使わずに洋書を海外から購入しようとする場合、洋書を取り扱っている大型書店や専門書店に相談してみると良いです。

洋古書なら世界最大の本の街・神田神保町を散策してみましょ。本屋めぐりと喫茶店めぐりという、これぞ大学生！という楽しみがあります。

洋書を海外から取り寄せる際には時間がかかる場合があることを念頭におくこと。秋に注文した本が卒論提出後に届いても意味がないので……。

高校の時よりも大学に入ってからの方が語学にかける時間がきっと多いはず。せっかくみっちりやった（やらされた？）語学なので、ぜひ洋書にも挑戦してみてください（西洋史専攻図書室にも基本的なものはそろっています）。

わからないところはTAの人にどんどん質問しに来てください！

■ オンライン

これまで日本史・東洋史に比べると西洋史の学生は一次史料に直接あたるのが困難でした。ですがオンライン史料を有効活用すればその不利な状況を一気に覆すことも可能です。

最近の卒論では Newcastle University がオンラインで公開している史料（Gertrude Bell という人物の日記）を使用した学生もいます。こういったオンライン史料を見つければ、海外の文書館に探しに行かなくても日本国内で入手が困難な史料を閲覧できます。もう諦めなくても良いわけです。

ただし、オンライン（インターネット）から史料／資料を使用する際は注意が必要です。しっかりとしたサイトを正しく使用すればよりよい卒論にもなりますが、そうでないものを使用した場合はかえって卒論の評価を下げることになりかねないので気をつけてください。

以下に西洋史学専攻で卒論を執筆する場合の注意事項を記します。参考にしてください。また、研究室のレファレンス・コーナーに

Trinkle, Dennis A. & Merriman, Scott A. (ed.), *The History Highway: a 21st-century guide to Internet resources*, M.E. Sharpe, USA, 2006.

というガイドブックがあります。大いに活用してください。この本ではいろいろなサイトを紹介しているので本当に使えます！

（１）諸注意

① 利用に適さないサイト例

- ・日本語のサイト
あくまで原則として。例外について②を参照。
- ・サイトの管理者が判明しないサイト
どういった人なのか、何をしている人なのか、学術的な訓練を受けた人なのか etc.
- ・一個人が日本語訳した史料（当人が研究者でも不可）
ネット上ではよく見受けられますが、訳にどこまで信用がおけるのかわからないことが多い。また、どこの誰が訳したものなのか？
- ・データベース系
何を根拠に作成しているのか判然としない物が多い。
- ・写真
個人がアップしている写真を使用する場合はやはり典拠のきちんとしたものを使用すること。

※これらの注意事項は海外のサイトでも同様です。

② 日本語でも利用して良いサイト

- ・大学や研究所などの機関がアップしている原語（もしくは英訳・日本語訳）の史料
- ・公的機関のアップしているデータベース（ただし、版の違いには注意）
ex.) 政府発行の白書、業界団体のデータ
- ・新聞記事
その際は元の記事を使用すること。Yahoo ニュースなどからの使用は不可。

- ③引用する場合は参照した日付を必ず明記。
サイトは更新されると内容が変わってしまうことがあるため。
- ④使用したサイトは参考文献にも明記すること。またその際、どのような研究機関・団体が管理・運営しているサイトなのかを付記すること。
- ⑤盗用は絶対ダメ
ネット上にあるもの（文章や資料など）をそのままコピーして貼り付けるのは絶対にダメです。盗用が発覚した場合、きわめて深刻な事態になると覚悟してください。

.....先輩からのアドバイス③～インターネット、どう使うかはキミ次第！～

インターネット。人類史上もっとも革命的な技術発明のひとつ。簡単に洋書が買えるのも、自分の部屋にいてもありとあらゆる情報を知ることができるのも、世界中の人ともコミュニケーションができるのも、自分の思っていることを発信することができるのもネットのおかげ。実感として、便利な道具というよりすでに生活の一部になっています。

なんでもありがネットの魅力でもあり、同時にそのなんでもありこそが危険だったりします。

特に研究で使う際には要注意。そのサイトの主宰者がどんな人（専門的な訓練を受けているのか、主義・主張に著しい偏向がないか）なのかわからなかったり、検索で上位に出てきたからといって本当に信頼がおけるのかもわからなかったり……。でも、史学科の学生だったら本を手にとるときに後ろの著者略歴を最初にチェックするのは基本中の基本！ そのスタンスを忘れずに！

初めて訪れるサイトはまずは疑いを持って。「疑う」というのは歴史学研究の基本のひとつです。信用できそうだったら自分の研究に役立ててください（ただし、無断転載とか、史料訳の無断使用とかは制作者の許可がない場合は御法度です！）。もちろん、レジュメ報告や卒論には URL を明記するのもお忘れなく。

サイトだけでなく今はメルマガとかでも学術的なもの（新刊情報があつたり）があるので、興味があつたら探してみてください。

ネットの使い方でパソコンを魔法の箱にするか、ただの箱にしてしまうかは使う人次第。「ネットリテラシー」もきっちりと学んでください。

「IT 技術」とか「高度情報化社会」って言うけど、「情報」を〈information〉って訳しているようじゃダメなわけです。本来、「情報」は〈intelligence〉、つまり「知性」であるべきなんですね（〈intelligence〉には「情報」という意味もある）。「知性」があつてはじめて「情報」は活きるのです。

(2) 注のつけ方

例として「アメリカの銃規制問題」というテーマで注を付けてみました。注(1)、(2)、(4)は web サイト、(3)はオンライン・ジャーナルの使用例。また(2)では新聞のオンライン・データベースも使用。(5)はアメリカ議会のオンライン・データベースから。

明記すべき要件は基本的に著書や論文と実は変わりありません。

- 1) 全米ライフル協会の反オバマ・キャンペーンについては以下のページを参照 (2010年1月20日閲覧)。『全米ライフル協会ホームページ』 <http://www.gunbanobama.com/>
- 2) 同上サイトを参照 (閲覧日も同じ)。アメリカ国内での銃規制の議論については以下を参照 (2010年1月4日閲覧)。"Gun Owners, Unfiltered"; [Editorial], *New York Times*. (Late Edition (East Coast)). New York, N.Y.: Dec 21, 2009. pg. A.30. from ProQuest. <http://proquest.umi.com/pqdweb>
- 3) Kleck, Gary, Gertz, Marc, & Bratton, Jason, "Why do people support gun control?: Alternative explanations of support for handgun bans", *Journal of Criminal Justice*, New York: Sep/Oct 2009. Vol. 37, Iss. 5; p. 496. Retrieved Nov. 28, 2009 from ProQuest:
 - ※1 [Retrieved Nov. 28, 2009] は閲覧した日付です。日本語で書くかどちらかに統一してください。
 - ※2 [from ProQuest] は使用したデータベースです。その後につけて URL を明記。また ProQuest を使用するのには2度目なので URL は付記していません。
- 4) 前掲の全米ライフル協会サイトを参照 (2010年1月26日閲覧)。
- 5) アメリカの銃器メーカー SIGARMS 社の顧問弁護士 Rodd Walton がアメリカ下院司法委員会でおこなった答弁について以下を参照 (2010年4月2日閲覧)。Protection of Lawful Commerce in Arms Act, Committee on Judiciary. House, Mar. 15, 2005. from Lexis-Nexis Congressional: <http://web.lexis-nexis.com/congcomp>

(3) 参考文献表

引き続き「銃規制問題」を例にして、参照したサイトを文献表にも列挙する形式を書きます。参考にしてください。

- ① web サイトは文献表の一番最後にまとめる。
- ② サイト名と URL を明記。また、サイトを管理・運営している機関・団体についての説明を付記。

・ web サイト

National Rifle Association <http://www.nraila.org/>

「全米ライフル協会」。1871 年設立。銃規制に反対するアメリカ最大級の圧力団体。

Children's Defense Fund <http://www.childrensdefense.org/>

「子どもを護る基金」。1973 年設立。アメリカの NPO 団体。子どもの権利・生命の擁護、貧困や虐待からの救済を目的に活動している。

Violence Policy Center <http://www.vpc.org/>

「暴力対策センター」。1988 年設立。殺人などアメリカ国内の様々な暴力問題について研究・調査している非課税の機関。特に銃使用による事件について研究し、銃規制を支持。

Mayors Against IllegalGuns <http://www.mayorsagainstillegalguns.org/html/home/home.shtml>

「不法銃器に反対する市長の会」。2006 年設立。現在（2012 年）600 人以上のアメリカの市長が賛同している。銃犯罪防止のための団体。

Ⅲ. 西洋史学基本文献表

(☆は西洋史研究室に所蔵)

〈A〉 概説・通史

- 『世界史大系』全17巻+別巻, 誠文堂新光社, 1959-1960. ☆
『大世界史』全26巻, 文芸春秋社, 1967-1969. ☆
『世界の歴史』全25巻, 講談社, 1977-1983. ☆
『世界の歴史』全30巻, 中央公論社, 1997-1999. ☆
『生活の世界歴史』全10巻, 河出書房新社, 1974-1975.
『新書西洋史』全10巻, 有斐閣, 1980. ☆
『民族の世界史』全15巻, 山川出版社, 1985-1987. ☆
『興亡の世界史』全20巻, 講談社, 2007- ☆

〈B〉 専門的通史

- 『岩波講座 世界歴史』新版全31巻, 全28巻+別巻, 岩波書店, 1967-74, 1997- ☆
『世界現代史』全37巻, 山川出版社, 1975- ☆
『世界歴史大系』(英、仏、独、米、露、西、中、南アジア), 山川出版社, 1900- ☆
『世界各国史』新版全28巻(一部旧版), 山川出版社, 1998- ☆
『シリーズ 世界史への問い』全10巻, 岩波書店, 1990-1991. ☆
『これからの世界史』全13巻, 平凡社, 1994- ☆
『女の歴史』, 藤原書店, 1994-1998. ☆

〈C〉 研究入門

- 井上幸治・林健太郎編『西洋史研究入門』(新・旧版), 東大出版会, 1954.1956. ☆
前川貞次郎編『入門西洋史学』ミネルヴァ書房, 1965. ☆
井上幸治・入交好脩編『西洋経済史学入門』広文社, 1967.
林健太郎・沢田昭夫編『原典による歴史学の歩み』講談社, 1974.
イッガース, G. G. 『ヨーロッパ歴史学の新潮流』晃洋書房, 1986. ☆
西川正雄・小谷汪之編『現代歴史学入門』東大出版会, 1987. ☆
福井憲彦『「新しい歴史学」とは何か』日本エディタースクール出版部, 1987.
望月幸男他編『西洋近現代史研究入門』名大出版会, 1993. 1999. (改訂版) ☆
『古代文明の謎と発見』全10, 毎日新聞社, 1977-1978. ☆
クレンゲル, H. 『古代バビロニアの歴史』山川出版社, 1980. ☆
———— 『古代オリエント商人の世界』山川出版社, 1983. ☆
———— 『古代シリアの歴史と文化』六興出版, 1991.
岸本通夫・吉川守他『古代オリエント』(世界の歴史2), 河出書房新社, 1989.
グレイ, ジョン『オリエント神話』青土社, 1993.
ジュニア, マッカーター他『最新・古代イスラエル史』日本基督教団出版局, 1993. ☆
ボテロ, ジャン『メソポタミア』法政大学出版局, 1998.
中田一郎訳『ハンムラビ「法典」』リトン, 1999. ☆
前田徹他『歴史学の現在 古代オリエント』山川出版社, 2000. ☆
弓削達・伊藤貞夫『古典古代の社会と国家』東大出版会, 1977.
マイヤー, E. 『ローマ人の国家と国家思想』岩波書店, 1978.
ホークス, J. 『古代文明史』上・下巻, みすず書房, 1978.
伊藤貞夫『古典期のポリス社会』岩波書店, 1981. ☆
———— 『古典期アテネの政治と社会』東大出版会, 1982.

- ブライケン, J. 『ローマの共和政』山川出版社, 1984.
 松本宣郎 『キリスト教徒大迫害の研究』南窓社, 1991. ☆
 長谷川博隆編 『古典古代のパトロネジ』名大出版会, 1992.
 弓削達・伊藤貞夫編 『ギリシャとローマ—古典古代の比較史的考察—』河出書房新社, 1988. ☆
 豊田浩志 『キリスト教の興隆とローマ帝国』南窓社, 1994. ☆
 月本昭男他編 『現代聖書講座』第1巻, 日本基督教団出版局, 1996. ☆
 桜井万里子 『古代ギリシア社会史研究』岩波書店, 1996. ☆
 伊藤貞夫・木村凌二編 『西洋古代史研究入門』東大出版会, 1997. ☆
- ミッタイス, H. / リーベリッヒ, H. 『ドイツ法制史概説』創文社, 1971. ☆
 サザン, R. W. 『中世の形成』みすず書房, 1978.
 前沢伸行他 『文献解説 ヨーロッパの成立』南窓社, 1981. ☆
 木村尚三郎他編 『「中世史講座」全12巻』学生社, 1982-1985 ☆
 オリヴィエ=マルタン, F r. 『フランス法制史概説』創文社, 1986. ☆
 ブロック, M. 『封建社会』堀米庸三監訳, 岩波書店, 1995. ☆
 池上俊一 『ロマネスク世界論』名大出版会, 1999. ☆
 佐藤彰一・池上俊一・高山博編 『西洋中世史研究入門』名大出版会, 2000. 2005. (改訂版)
 ☆
- アメリカ学会編 『原典アメリカ史』全5巻+別巻, 岩波書店, 1950-1958. ☆
 ビアード, C. A. 『新版アメリカ合衆国史』岩波書店, 1964.
 斉藤 真他編(旧版)/本間長世他編(新版) 『アメリカ研究入門』東大出版会, 1969/1980.
 タカキ, ロナルド 『多文化社会アメリカの歴史』明石書店, 1995. ☆
 渡辺和子編 『アメリカ研究とジェンダー』世界思想社, 1997. ☆
 エヴァンズ, サラ・M 『アメリカ女性の歴史』明石書店, 1997.
 阿部斉・五十嵐武士編 『アメリカ研究案内』東大出版会, 1998. ☆
 岡田泰男 『アメリカ経済史』慶大出版会, 2000. ☆
 五十嵐武士・油井大三郎編 『アメリカ研究入門』(第3版) 東大出版会, 2003. ☆
- ヒル, C. 『宗教改革から産業革命へ』未来社, 1970. ☆
 トレヴェリアン, G. M. 『イギリス社会史』全2巻, みすず書房, 1970/1983. ☆
 『イギリス史』全3巻, みすず書房, 1973-1975. ☆
 ミッチェル, R. / リーズ, M. 『ロンドン庶民生活史』みすず書房, 1971. ☆
 青山吉信他編 『イギリス史研究入門』山川出版社, 1973. ☆
 中村英勝 『イギリス議会史』有斐閣, 1977. ☆
 斎藤修 『プロト工業化の時代』日本評論社, 1985.
 村岡健次/川北稔 編著 『イギリス近代史』ミネルヴァ書房, 1986.
 テイラー, A. J. P. 『イギリス現代史』みすず書房, 1987. ☆
- シャイラー, W. L. 『第三帝国の興亡』全5巻, 創元社, 1961. ☆
 西川正雄編 「ドイツ近現代史関係邦語単行本目録」『史論』23号, 東京女子大, 1971. ☆
 マン, G. 『近代ドイツ史』全2巻, みすず書房, 1972. ☆
 ハルトウング, F. 『ドイツ国制史』岩波書店, 1980. ☆
 村瀬與雄 『ドイツ現代史』東大出版会, 1982. ☆
 西川正雄編 『ドイツ史研究入門』東大出版会, 1984. ☆
 木谷勤/望田幸男編 『ドイツ近代史-18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房, 1992.
 阿部良男編 『ヒトラーを読む 3000冊』刀水書房, 1995. ☆
 矢野久/ファウスト, アンゼルク編 『ドイツ社会史』有斐閣, 2001. ☆
- デュビイ, G. / マンドルー, R. 『フランス文化史』全3巻, 人文書院, 1970. ☆
 ガクソット, P. 『フランス人の歴史』全3巻, みすず書房, 1975. ☆
 木村尚三郎他編 『概説フランス史』有斐閣, 1982.

ゼルディン, T. 『フランス人』全2巻, みすず書房, 1989.

鳥山成人 『ロシア史』 修道社, 1956.

江口朴郎編 『ロシア革命の研究』 中央公論社, 1968. ☆

菊地昌典編 『ソビエト史研究入門』 東大出版会, 1976. ☆

カー, E. H. 『ロシア革命』 岩波書店, 1979.

サイド, エドワード・W 『オリエンタリズム』 平凡社, 1986. ☆

アンダーソン, ベネディクト 『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行—』

NTT出版, 1997. (初版 リプロポート, 1987.) ☆

スコット, ジョーン・W 『ジェンダーと歴史学』 平凡社, 1992. ☆

竹村和子 『思考のフロンティア フェミニズム』 岩波書店, 2000. ☆

Sasson, J. M. (ed.), *Civilizations of the Ancient Near East*, 4 vols., Charles Scribner's Sons, 1995. ☆

The Cambridge Ancient History, 12 vols. (時代・地域別通史、詳細な Bibliography/Index) ☆

The Cambridge Medieval History, 8 vols. (章別・主題別通史、B./I.) ☆

The New Cambridge Modern History, 14 vols. (章別・主題別通史、I.) ☆

The Cambridge History of the British Empire. (章別・主題別通史、B./I.) ☆

English Historical Documents, 12 vols. (原資料と解説、年代順) ☆

Europe in the Middle Ages. (評価の定まった文献の英語翻訳選集) ☆

Seminar Studies in History. (論文の展開、文献・資料の参照の仕方を学ぶシリーズ、小資料集付、B./I.) ☆

Studies in Economic and Social History. (最新の経済・社会史のガイド的なシリーズ、B./I.) ☆

Problems in Focus. (各巻ごと、1つのテーマを数人の研究者が論述、註、B./I.) ☆

<D> 研究動向

史学会編 『史学雑誌』 山川出版社 ※ 59編以後の各編5号「回顧と展望」 ☆

史学会編 『日本歴史学会の回顧と展望 1949-1985』 全25巻, 山川出版社, 1987-1988. ☆

国際歴史学会議日本国内委員会編 『日本における歴史学の発達と現状』 I-V (東大出版会),

VI-VII (山川出版社), I -1959, II -1966, III -1969, IV -1976, V -1980, VI -1985, VII -1990. ☆

歴史科学協議会編 『現代を生きる歴史科学』 全3巻, 大月書店, 1987.

法制史学会編 『法制史文献目録』 創文社, I -1962(再版1983), II -1983. ☆ (II)

社会経済史学会編 『社会経済史学の課題と展望』 有斐閣, 1992.

『アメリカ研究邦語文献目録』 I -1973, II -1976, III -1982, IV - (歴史) 1987, 東京大学出版会 ☆

『アメリカ外交史』『移民研究』 基本図書リスト, 東大アメリカ研究資料センター, 1991.

☆

歴史学研究会編 『現代歴史学の成果と課題』 青木書店, I (1-4) 1974-75, II (1-3) 1982.

歴史学研究会編 『現代歴史学の成果と課題 1980-2000年 I 歴史学における方法的転回』 青木書店, 2002.

歴史学研究会編 『現代歴史学の成果と課題 1980-2000年 II 国家像・社会像の変貌』 青木書店, 2003.

<E> 雑誌

『史学雑誌』 ☆

『西洋史学』 総目録 (1-150号、別冊「西洋史学総目録」比叡書房 1989) ☆

『歴史学研究』 総目録 (1-500号、別冊「歴史学研究 総目録」1982) ☆

『社会経済史学』 総目録 (1-36巻6号、臨時増刊 1975)

(1-48巻6号、「社会経済史学会 50年の歩み」有斐閣 1984)

『法制史研究』 総目録 (1-20号、20号所収 1971)

〈F〉 事典・辞典

〈歴史事典〉

- 『世界歴史事典』全25巻,平凡社,1951-1955. ☆
J.ドゥロルム編『年表世界史』全4巻,白水社,1967. ☆
村川堅太郎、江上波夫 他編『世界史小辞典』山川出版社,1979. ☆
京都大学文学部西洋史研究室編『改訂増補版 西洋史辞典』創元新社,1964. ☆
京都大学西洋史辞典編纂会 編『新編 西洋史辞典』東京創元社,1983. ☆
『英米史辞典』研究社,2000. ☆
フィエロ, アルフレッド、鹿島茂監訳『パリ歴史辞典』白水社, 2000.
西川正雄他編『角川世界史辞典』角川書店, 2001. ☆
望田幸男編『西洋の歴史基本用語集 (近現代編)』ミネルヴァ書房, 2003.
日本オリエント学会編 (代表編集: 中田一郎)『オリエント事典』岩波書店, 2004.
Dictionary of the Middle Ages., Charles Scribner's Sons, 1982-1983. ☆

〈人名辞典〉

- 『岩波西洋人名辞典 増補版』岩波書店, 1981. ☆
クリスタル, デイヴィッド編『岩波=ケンブリッジ世界人名辞典』岩波書店, 1997.
『改訂増補 西洋人名よみかた辞典』(全3巻) 日外アソシエーツ, 1992.

〈歴史学の考え方〉

- 『歴史学辞典』弘文堂, 1992 ~. (全15巻予定)

〈宗教・思想〉

- 『キリスト教大事典』教文館, 1963. ☆
『旧約新約聖書大辞典』教文館, 1989. ☆
『西洋思想大事典』全5巻,平凡社,1990. ☆
山折哲雄『世界宗教大辞典』平凡社, 1991.
ウィーナー, フィリップ・P『西洋思想大辞典』(全4巻+別巻) 平凡社, 1990.

〈G〉 年表・地図・統計資料

〈年表〉

- トレーガー, J.編『トピックス & エピソード 世界史大年表』平凡社, 1985. ☆
『世界史大年表』山川出版社, 1992. ☆

〈地図〉

- 『帝国書院=ウェスターマン社 世界歴史地図』帝国書院, 1982. ☆
ブラック, ジェレミー監修『世界史アトラス』集英社, 2001.

〈統計資料〉

- 『マクミラン世界歴史統計』I-ヨーロッパ編, III-南北アメリカ・大洋州編, 原書房, 1984, 1985. ☆
『ヨーロッパ歴史統計/国家・経済・社会』(上・下), 原書房, 1985, 1987. ☆
『アメリカ歴史統計』全3冊, 原書房, 1989. ☆
Mitchell/Abstract of British Historical Statistics., Cambridge Univ. Press, 1962. ☆

〈H〉 その他

- 澤田昭夫『論文の書き方』講談社学術文庫.
澤田昭夫『論文のレトリック』講談社学術文庫
清水幾太郎『論文の書き方』岩波新書.

IV. 特別演習について

(特別演習はゼミによって進め方・進行が異なるので指導教員の指示に従ってください)

◆ 特別演習とは

昨年秋の履修ガイダンスでも説明しましたが、演習形式で授業が進められます。ゼミは個々の報告とそれらに対する批判・検討を基本とするもので、最も“大学らしい”授業と言えます。当然、無断での欠席は許されません(特に自分が報告の回)。

ゼミによって細かい点は異なりますが、後期以降は卒論の練習ともいえる予備卒論(ゼミ論)を書くこととなります。とりあえずはこのゼミ論がみなさんの今年の目標と言えるでしょう。

また、みなさんは大学生活の折り返しを迎えたわけですが、残りの2年間はゼミを中心に大学生活を送ることになります。ゼミは来年度の卒論執筆に向けて重要であるだけでなく、人間関係においても少なからず大切なものなので、無断欠席してゼミ仲間に迷惑をかけると後々問題になったりもします……。気をつけてください。

◇ テキスト & レジюме 印刷補助

ゼミによりませんが、特別演習では自分の報告をするにあたり、自分が選んだ論文などをテキストとしてゼミの全員(教員含む)に前もって配布します。また当日にはレジюмеも全員に配布します。ここではその手続きについて説明します。

manabaで配付する場合担当教員の指示に従ってください。

(1) テキスト

- ① 発表者は選んだ論文(あるいは本の一部)のコピーをとってください。
 - ・ ネットなどからプリントアウトした場合は必ずコピー原稿を見開き2ページの状態に一度コピーすること(プリントアウトのままはダメ)。
 - ・ そのコピー代は自費です。
 - ・ 両面印刷にしないでください。
 - ・ ホチキスで綴じないでください。 ※これらの諸注意は作業の効率化とコピー機の不具合防止のためです。
 - ・ 折る必要はありません。
 - ・ 自分で裁断しないでください。
 - ・ 途中で用紙サイズを変更しないでください。
 - ・ ページの抜かし、印刷ミスに注意(提出前に必ず確認してください)。

- ② 発表者は①で作成したコピーを室員に渡し、必要な部数を申請。

※原則として報告の2週間前までに申請。ゼミで配布するのは報告の1週間前なので、さらに余裕を見てその1週間前、ということです。
発表者がテキストを配付するはずの回(発表の前週)までに室員にテキストを持ってこなかった場合は受け付けません。発表までに自費で人数分を作成すること。

- ③ 作成されたテキストは各特別演習のテキスト・ボックスに入れておきます。発表者は

それを取ってゼミで配布します。

※その際、テキスト・ボックス内には残部などを置いていかないでください (基本的に申請された部数しか作成しませんが)。また欠席などで余っても戻さないでください。欠席者に渡す場合はそれまで自分でもっていてください。テキスト・ボックスがコピーの山であふれることになってしまいます。

(2) レジюме

①発表者は研究室、もしくは講師控え室(3355)でレジюмеの原稿を見せ、印刷申請用紙をもらう。

②講師控え室の窓口で必要事項を記入した印刷用紙を見せ、印刷する。

③発表者は授業でレジюмеを配布する。

※印刷は当日でもかまいませんが、印刷コーナーが混み合うこともあるので時間に余裕をもって印刷しましょう。

※テキスト同様に、報告の終わったレジюмеをテキスト・ボックス内に残さないでください。

.....先輩からのアドバイス④～便利なCiNii(サイニイ)、だけど急がば回れ!～

中央大学図書館は様々なオンライン・データベースを契約購入しています。その中には雑誌論文そのものを検索・閲覧できるものもあります(当然プリントアウトもできます)。

中でも代表的なものが「論文情報ナビゲータ CiNii(サイニイ)」でしょうか。その論文が他の研究者からどのくらい引用されたか(つまり「量」)、という情報は論文の「質」というものをある程度保証してくれます(ただし、絶対的な指標ではありません。視聴率の高いテレビ番組が必ずしも質の高い番組ではないでしょう?)。

それでもおそらく多くの学生が「CiNii」を使うでしょう。だって論文自体がアップされていればボタン1つでプリントアウトできますから。手間暇もコピー代だってかかりません。

でも本当にその論文でいいですか? その論文が自分が探していた、自分に必要なものならよいですが、「雑誌探すの面倒だから、これでいいや」って決めてませんか?

わずかな労を惜しんで安易に妥協しないでください。一見遠回りに見えても、結果としてそれが一番の近道だったということはよくあることです。

VI. 卒論テンプレート

次頁から卒論のテンプレートを掲載します。このフォーマットをそのまま使用していただいてもかまいません（むしろ推奨）。執筆の参考にしてください。

書式設定は 11 ポイントで 40 字 30 行となっています。

卒論題目
— 副題 —

中央大学文学部人文社会学科西洋史学専攻
学籍番号 氏名

目 次

はじめに

1

第 1 章

第 2 章

第 3 章

第 4 章

おわりに

参考文献

資料 ※図版や写真などの資料がある人

参考文献本文総字数：〇〇〇〇〇字

はじめに

※ここから書き始める。

第1章 タイトル

※ここから書き始める。

第2章 タイトル

※ここから書き始める。

第3章 タイトル

※ここから書き始める。

おわりに

※ここから書き始める。

参考文献

1. 著者名『著書名』出版社、出版年
2. 著者名「論文名」『収録雑誌名』巻号、出版年

※ p.36 は落丁ではありません。メモ欄としてお使いください。